

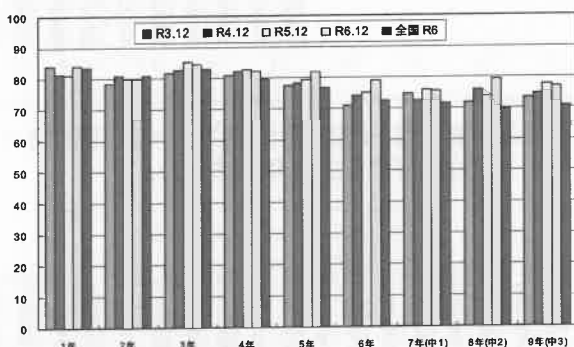
## 箕面学習状況調査・生活状況調査〈概要〉

- 調査は箕面市の肯定率を全国平均値と比較
- 回答は、「そう思う」「少しそう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」の4つから選択
- 肯定率とは、選択肢の「そう思う」と「少しそう思う」の割合を単純に合計した値

### 【自己認識】 箕面っ子の自己肯定感は…

#### 家族とのかかわり

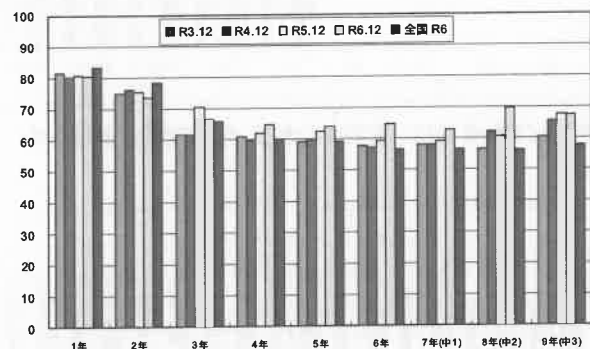
- ◆ 本当につらいことがあったとき、それを家の人のだれかに相談できますか。



安心して相談するでござる！

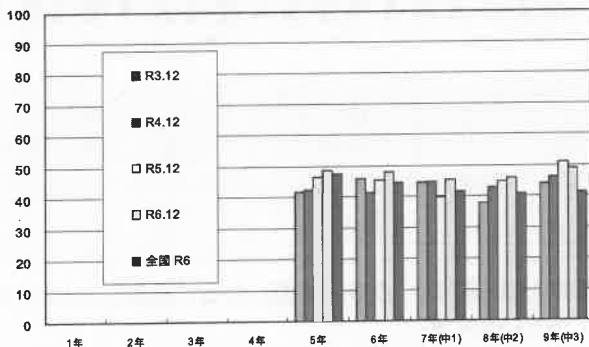
#### 先生とのかかわり

- ◆ 本当につらいことがあったとき、それを学校の先生に相談できますか。

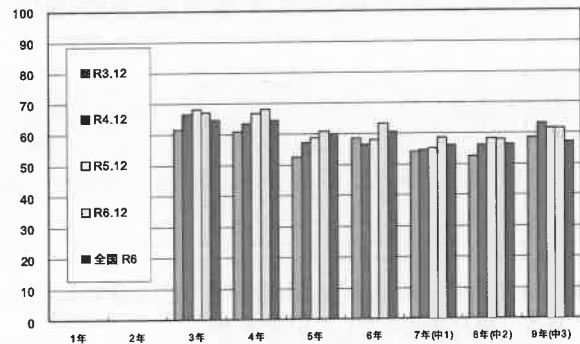


#### 他者からの評価

- ◆ あなたの発言は、クラスのみんなを動かす力があると思いますか。



- ◆ 学校の授業やクラスの役割などで、自分は先生から期待されているんだな、友だちからたよりにされているんだな、と感じることがありますか。



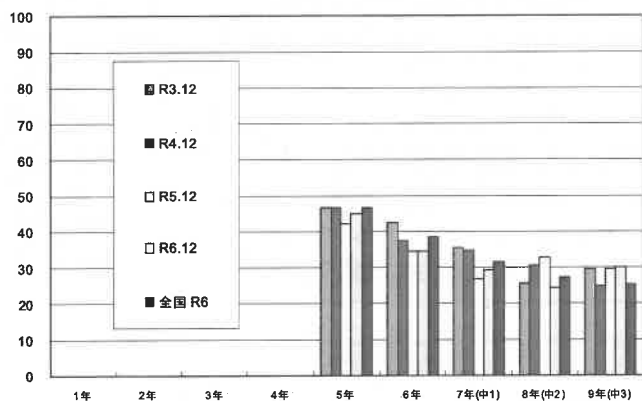
自己肯定感を「家族や先生とのかかわり」「他者からの評価」の2点から分析しました。「家族や先生に相談できる」と回答した割合は、ほとんどの学年が全国平均値と比べて高くなっています。「先生に相談できる」と回答した割合は、全国平均値と比べて小学校低学年において低く、成長するにつれ高くなる傾向にあります。

「自分にはクラスを動かす力がある」「期待されている、頼りにされている」と思っている子どもは、昨年度と比べて高い傾向にあり、特に中学生で全国平均値と比べ高く推移していることが分かります。

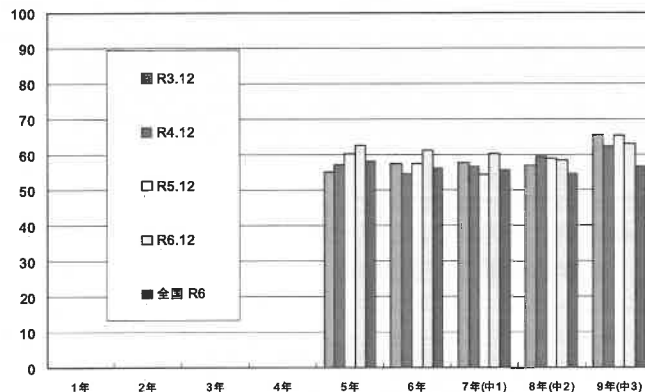
自分の思ったことは、言葉にして伝えよう

## 【社会性】 ソーシャルスキルは…

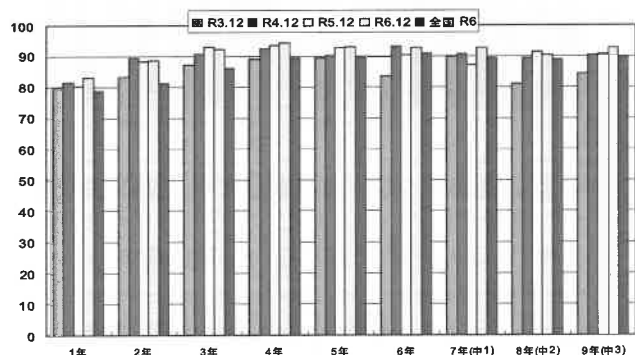
◆あなたは、学校生活の中で何回ぐらい、自分の意見を  
発表したり、先生の質問に答えたりしていますか。



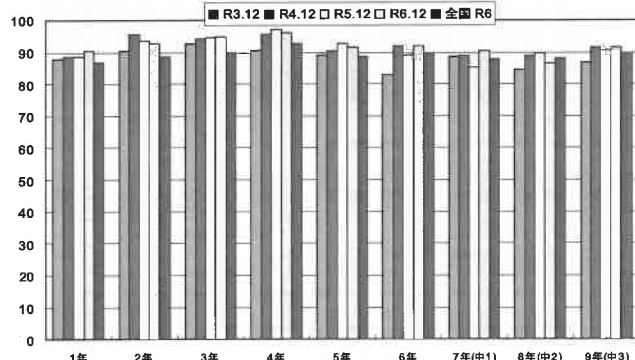
◆クラスの話し合いや友だちとの間で意見が合わな  
かったとき、みんなが納得できるように考えて、提  
案していますか。



◆学校の授業では、友だちと教え合う時間があります  
か。

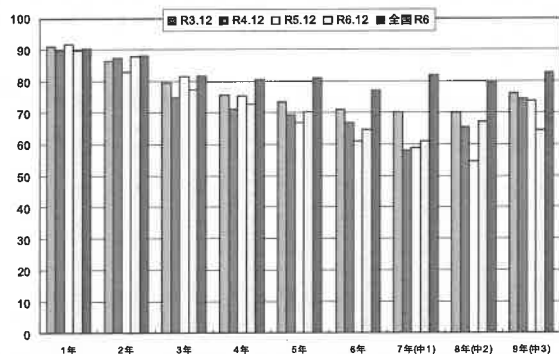


◆学校の授業では、とんだり同士やグループで話し合っ  
たり、討論したりすることがありますか。

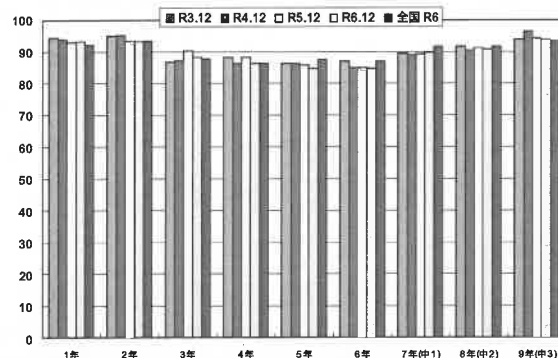


「意見の発表」は、全国と比べて低い傾向にありますが、「考えの提案」の項目は全国と比べて肯定率が高い結果となりました。「教え合い」や「話し合い、討論」については、ほとんどの学年で90%を超える高い値となりました。思いや考えを伝え合う授業が各校で実施された成果が、児童生徒の意識変化に表れているのではないかと考えます。

◆あなたのクラスでは、みんながそうじ当番や係の仕  
事を、責任をもってしていますか。



◆学校の規則や、クラスで話し合っ  
て決めたことを、守  
っていますか。



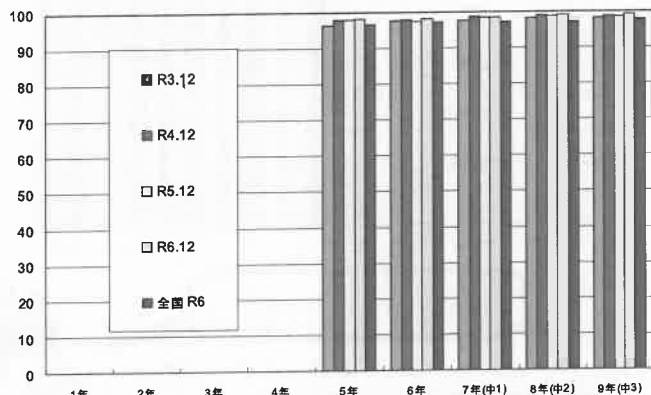
「そうじ当番や係の仕事をする」項目は、全国と比べて低い肯定率でしたが、「学校の規則やクラスで話し合っ  
たことを守る」項目は、同程度の結果となりました。子どもたちが、主体的に仕事に取り組めるよう、肯定的  
な声かけを続け、当番や係の意義を考えられるような取組を進めていきます。

## 【対人ストレス】 いじめのサインは…

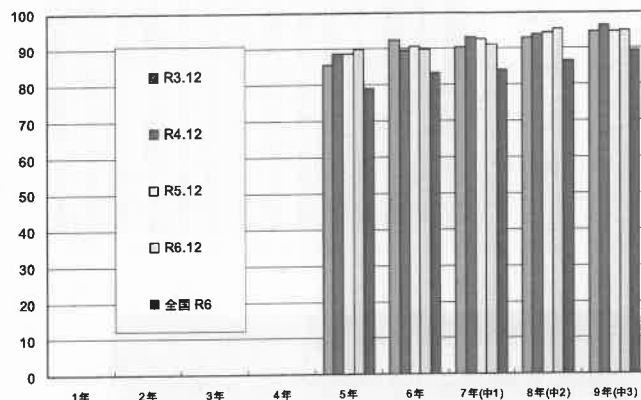
このグラフは、ポイントが高いほど良好なのでござる！



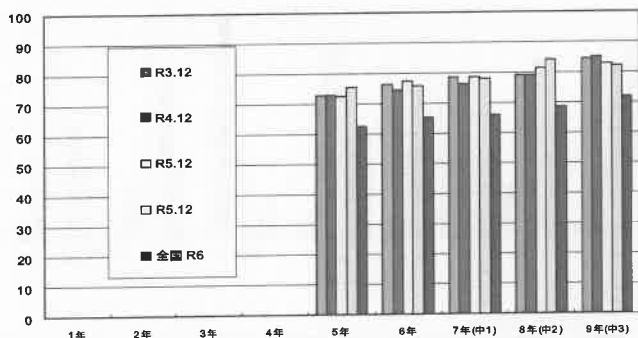
◆ SNS 上で仲間外れにされたり、ひどいことを書かれたりして、傷ついたことがありますか。  
⇒「一度もない・前はあった」と回答した割合



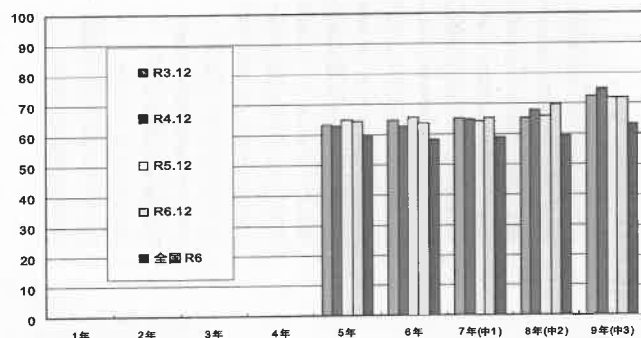
◆ 自分がいつ、いじめのターゲットになってしまうか、不安を感じることがありますか。  
⇒「一度もない・前はあった」と回答した割合



◆ 信じていた友だちから、思いもよらぬ言葉を聞かされたり、つらい態度をとられたりして、傷ついたことがありますか。⇒「一度もない・けんかはしても傷つくことはない」と回答した割合



◆ 仲のいい友だちでも、本音では自分のことを悪く思っているかもしれない、と不安に思うことがありますか。⇒「一度もない・前はあった」と回答した割合



SNS 上でいじめにあったことがないと回答している子どもの割合が全国平均値と比べて高い結果となっています。また、「対人ストレス」を感じていない子どもの割合も例年、全国平均値より高い結果がでています。「自分がいつ、いじめのターゲットになってしまうか、不安を感じることがありますか」という質問では、全国平均値と比べて、肯定率は高く推移しています。

しかし、「信じていた友だちから、つらい態度をとられて、傷ついた」「仲のいい友だちの本音が不安だ」という質問においては、「一度もない」と回答している子どもの割合が全国平均値と比べて高い結果がでていますが、2～3割の子どもが傷ついたり不安に思ったりしていると回答していることがわかります。漠然とした「自分がいじめのターゲットになってしまうのではないか」という不安は感じていないが、仲のいい友だちとの関係に不安を感じている傾向がうかがえます。

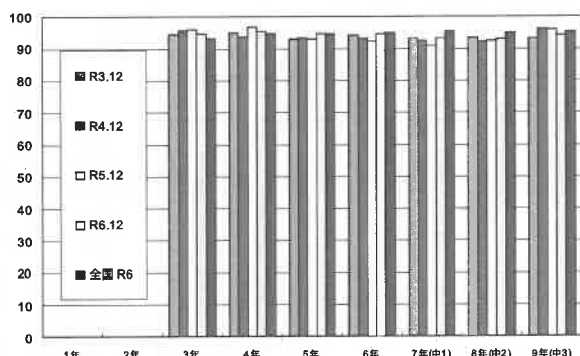
こうしたデータを踏まえ、各学校においては、学級・学年における人間関係づくり、いじめやネットトラブルの未然防止の授業、情報モラルに関する学習等の取り組みを引き続き行っていきます。また、周りの大人も、子どもたちからのサインを見逃さないよう、しっかりと見守っていく必要があります。

つらい思いをしたり、不安に思ったりすることは、相談しよう



## 【学級の絆】仲間の意識は…

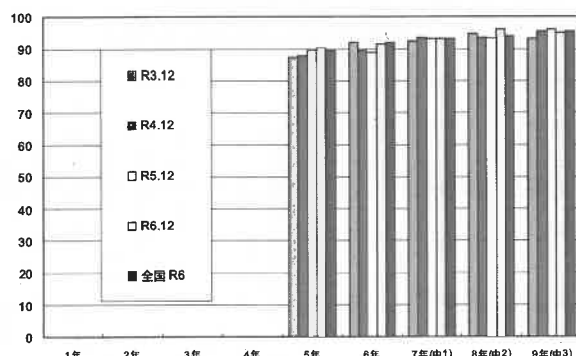
◆あなたのクラスには、いいところがあると思いますか。



クラスのいいところがあるって  
素敵でござる！

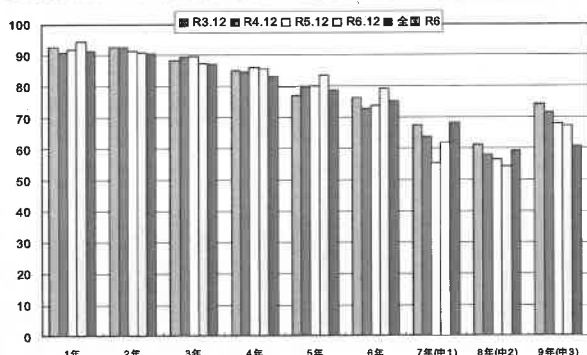


◆球技大会やクラスの発表会などがあるとき、  
あなたのクラスは盛り上がり、団結しますか。



## 【学習習慣】家庭学習は…

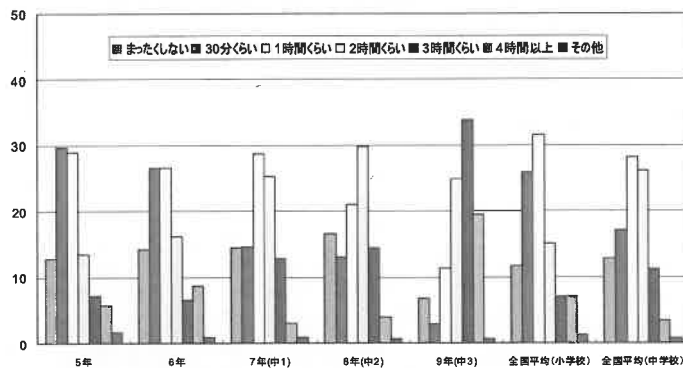
◆テストでまちがえた問題は、あとでやり直していますか。



復習をがんばろうね！



◆学校の授業以外に、平日(月～金)1日  
どれくらいの時間、勉強をしますか。



学級の絆について、「クラスにいいところがある」の肯定率は、小・中学生ともに90%を超える数値です。「盛り上がり、団結しますか」の肯定率は学年が上がるに従って高くなる傾向にあり、全国平均値と同程度の値です。特に中学生については、学習の量や授業時間が増える中で、各行事が学校生活をおくる上でかせかない要素となっていると言えます。9年(中3)にとっては、地域の友人と過ごす最後の学年であり、卒業後はそれぞれの進路に分かれることなども、学級が団結につながるのではないかと考えます。

学習習慣について、「まちがえた問題は、あとでやり直しているか」は、学年が上がるにつれて肯定率は下がっており、全国平均値と同じ傾向にあります。「学校の授業以外の平日の勉強時間」については、小学生は30分、7年(中1)は1時間、8年(中2)は2時間、9年(中3)は3時間ぐらいが最も数値が高くなっています。学年が上がるに従って、家庭や塾等での勉強時間が増えています。中学生は、全国平均値と比較しても勉強時間が長い傾向にあり、学習意欲の高さがうかがえます。予習や復習に取り組むなどの積み重ねは、授業内容の理解や定着に繋がります。授業以外の時間の使い方を工夫し、自主学習ノートなどを活用しながら、学習の習慣づけを行うことが大切です。



各校では、成果と課題を明確にし、取り組みの検証を行い、指導に活かしていきます。

### 【箕面っ子の自己肯定感】

- 本当につらいことがあったとき「家族や先生に相談できる」と感じている子どもたちの割合は、学年によって多少の違いはありますが、全国と比べて高い肯定率となりました。また、「自分にはいいところがある」「周りから期待や頼りにされている」と感じる割合も、多くの学年で全国平均値よりも高くなっています。

自分は頼りにされている  
期待されている



自分に自信がもてる  
学校には自分の居場所がある



自己肯定感が高まる

子どもたちの考えに寄り添いながら、子どもたちの望ましい行動について価値付けし、自己肯定感が高まるような取り組みを大切にしていきます。

### 【いじめのサイン】

- 「いじめはよくないことだ」ということは、子どもたちはわかっています。各校の実態に応じて、いじめを止める、つらい思いをしている人の味方になるにはどうしたらいいか等、いじめの未然防止に力を入れていきます。また、子どもたちに自分のつらい気持ちを発信することの大切さを伝えるとともに、子どもたちが教職員に SOS を発信しようと思えるよう、「共感・傾聴」を大切にします。各校において、いじめの未然防止策や対応中の事案の進捗状況を協議する「校内いじめ対策委員会」を定期的に実施しております。対策委員会のメンバーは教職員だけでなく、SC(スクールカウンセラー)、SSW(スクールソーシャルワーカー)といった専門家も入り、多面的にみることを大切にしています。
- インターネットや SNS 上でのいじめは、なかなか表面に出にくい場合が多いです。インターネットや SNS を使用し始める時期の低年齢化が進んでいます。いじめが重篤化しないよう、日々、子どもたちの表情や言動を気かけ、各学級における人間関係づくりの取り組みや情報モラル教育の充実とともに、周りの大人が子どもたちのサインを見逃さず、しっかりと見守っていく必要があります。

### 【学級の絆】

- 「自分のクラスには、いいところがある」と言えるには、学級が子どもたち一人ひとりにとって安心できる居心地の良いものであることが大切です。子どもたちが、学級での成功体験や達成感を積み、「自分たちはできる」と感じることができるよう、今後も取り組みを進めていきます。

### 【社会性・規範意識】

- 社会性の育成のため、引き続き、思いや考えを伝え合う授業を各校で実施します。
- 集団生活におけるきまりやルールを主体的に判断し、社会人としての規範意識を身につけられるよう、役割や仕事に対する責任感について考える場面を多くつくり、役割を果たす過程や、果たした時の価値付けなど、子どもたちが達成感を持てるような取り組みを進めていきます。

### 【学習習慣】

- テスト後のやり直しをしている割合は、学年が上がるにつれて肯定率が下がる傾向にあります。小学校低学年のうちから、やり直しの仕方・大切さについて指導していきます。
- 学習をする際に、課題に対して、どれくらいの時間で取り組むか計画立てる習慣を小学校のうちから身につけるよう指導していきます。

